



神奈川県

はじめての日本語

～教職員のための指導参考資料～



平成17年3月

神奈川県立総合教育センター

はじめに

文部科学省「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査(平成15年度)」によれば、平成15年9月1日現在、日本の公立小・中・高等学校、中等教育学校及び盲・ろう・養護学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童・生徒数は19,042人であり、前年度に比べ1.6%増加し、在籍学校数についても前年度より2.0%増加しています。中でも神奈川県は、都道府県別在籍状況において、児童・生徒数及び在籍学校数ともに、2番目に多い県となっています。

このような中、文部科学省は、「児童・生徒が学校生活に速やかに適応するためには、学校における効果的かつ効率的な日本語指導が必要である。しかしながら、日本語の初期指導から教科学習へつながる段階の日本語カリキュラムが必ずしも十分に確立しておらず、各教員の努力に委ねられているのが現状」であるとして、「学校教育におけるJSL(第二言語としての日本語)カリキュラムの開発」を進めています。

教科学習につながる段階の日本語カリキュラムはもとより、初期指導に関して、学校ですぐにでも活用できる日本語指導計画及び学習指導案の開発が急務となっています。

こうした状況を踏まえ、当センターでは、平成15年度より「外国籍等の児童・生徒の日本語指導に関する研究」に取り組み、日本語の初期指導のための学習指導計画と学習指導案及び教科学習のための学習指導案並びに参考となる文献等からなる「参考資料」を作成しました。

この「参考資料」で取り上げた内容は日本語指導に関する一つのモデルではありませんが、各学校における日本語指導の実践の一助として、御活用いただければ幸いです。

平成17年3月

神奈川県立総合教育センター

所 長 清 水 進 一

目次

はじめに 目次

1 日本語指導 その1 はじめて学ぶ日本語

(1) 学習指導計画	1
ア はじめに	2
イ その後に	
(ア) 小学校編	8
(イ) 中学校編	9
(2) 学習指導案(実践例)	10
ア 小学校編	11
イ 中学校編	14
シラバスとカリキュラム	16

2 日本語指導 その2 教科学習のための日本語

(1) 教科学習のために	18
(2) 学習指導案(実践例)	19
ア 小・中学校では	
(ア) 小学校編	19
(イ) 中学校編	22
JSLカリキュラム	23
イ 高等学校では	24

3 日本語指導にかかわって

(1) 知っておきたいこと	
ア 子どもたち、保護者は	28
イ 学校内外での連携は	29
(2) 詳しく知りたいときに	
ア インターネット	30
イ 刊行物	
(ア) 日本語指導	32
(イ) 教材	34

1 日本語指導 その1 はじめて学ぶ日本語

(1) 学習指導計画

「はじめて学ぶ日本語」を教える

ここでは、はじめて日本語を学ぶ外国籍等の児童・生徒を対象に、「はじめて学ぶ日本語」を教える際の学習指導計画を紹介します。

(1) 学習指導計画...次の二つからなっています。

ア はじめに...小学校・中学校で共通する内容を載せました。

イ その後に...「ア はじめに」の終わりの方にあたる、教科学習につなげるための内容について、小学校・中学校別に載せました。

(2) 学習指導案...(1)の学習指導計画に関する学習指導案(実践例)を載せました。

この学習指導計画は、学校生活を始めるに当たり必要な日本語の習得を目標としています。

いくつかの段階に分け、学習にかかる期間も載せました。
この段階(学習にかかる期間)はめやすですので、必ずしもこの順序である必要はありません。

児童・生徒の学習内容・活動を載せました。
学習する具体的な日本語については、「 」の中に示しました。例ですので、学習する児童・生徒の年齢や学習場面にあった日本語としてください。

過程	目標	学習内容・活動 「日本語例」	指導上の留意点 【教材・教具】
----	----	-------------------	--------------------





学習の目標を載せました。
一つの目標が達成されなければ次に進めないというわけではありません。戻って学習する必要がある場合もあります。

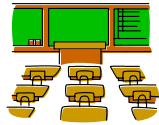
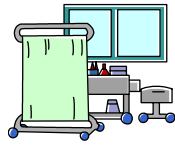
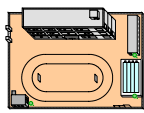



指導上の留意点を載せました。
各段階に共通する留意点としては、具体的な物を利用したり、実際の場面を想定したりすることです。
教材・教具については【 】の中に示しました。




実際の指導にあたっては、この学習指導計画どおりである必要はありません。母語・文化・学習歴・発達年齢・家庭環境などに配慮して、目の前にいる児童・生徒一人ひとりに応じた順序・進度などを工夫してください。




学習指導計画どおりに進まないといって焦らず、児童・生徒とのコミュニケーションを大切にしながら進めてください。


ア はじめに

過程	目標	学習内容・活動 「日本語例」	指導上の留意点 【教材・教具】
第一段階 一カ月目	簡単な自己紹介とあいさつができる。	<p>「わたし・ぼく」を使って、簡単な自己紹介をする。</p> <p>ア「(わたし/ぼく)の名前は です。」 イ「 からきました。」 ウ「 [サッカー]が 好きです。」 エ「よろしくおねがい します。」</p>  <p>簡単なあいさつの言葉を覚える。</p> <p>ア「おはようございます。」 「こんにちは。」 「さようなら。」 イ「よろしくおねがいします。」 ウ「ありがとうございました。」 エ「しつれいします。」 「しつれいしました。」</p> 	<p>児童・生徒の不安な気持ち等に配慮して、話しやすい雰囲気を作ることに留意する。初めは母語と対比させながら指導する。</p> <p>児童・生徒は日本語であいさつをしたり、教師は母語であいさつをしたりする。</p> <p>学級で、「はじめてのあいさつ」ができるように、紙などに書いて指導する。</p> <p>世界地図や地球儀を用意して、自分の国や日本の位置を確かめながら自己紹介をさせる。</p> <p>教室や職員室の出入り時のあいさつなどは、実際にやりながら練習させる。</p> <p>【絵カード】 【世界地図や地球儀】</p> 
	自分のことや気持ちを伝えることができる。 (1)	<p>自分の名前を書いたり読んだりする。 ・「ひらがな」「かたかな」あるいは「漢字」を使って練習する。</p> <p>自分の気持ちを伝える言葉を覚える。</p> <p>ア「わかりましたか？」 「いいえ、わかりません。」 「はい、わかりました。」 イ「できましたか？」 「いいえ、できません。」 「はい、できました。」 ウ「もう一度いってください。」 「ゆっくりいってください。」 エ「 してください。」 「 しないでください。」 「やめてください。」 オ「ごめんなさい。」「すみません。」 カ「楽しいです。」「うれしいです。」 「困っています。」「いやです。」</p>	<p>自分の名前を書けるようにするために、名前を書いたカードを机にはったり、筆箱の中に入れておいたりするなどして、いつでも見ながら書けるようにしておく。</p> <p>言葉が使われる場面を具体的に設定し、動作で示しながら指導する。</p> <p>【名前カード】 【絵カード】</p> 

過程	目標	学習内容・活動 「日本語例」	指導上の留意点 【教材・教具】
第二段階 一カ月目	先生や友だちの名前が言える。	<p>「この・あの」などを使いながら、友だちや先生の名前を言う。</p> <p>ア「先生の名前は です。」 「（男/女）の先生です。」</p> <p>イ「この人は さんです。」 「あの人は さんです。」</p> <p>ウ「となりの人は さんです。」 「（前/後）の人は さんです。」</p> <p>エ「（右/左）の人は さんです。」</p> <p>オ「なまえは？（なまえは何ですか？）」</p>	<p>遊びやゲームを取り入れながら活動することにより、友だちを作るという点にも配慮する。</p> 
	学校内を移動するための言葉が分かる。	<p>「ここ・そこ・あそこ・どこ」などを使いながら、学校内の施設や場所の名前を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の教室、職員室、保健室、図書室 ・特別教室、体育館、プール ・校門、校庭、昇降口 <p>ア「ここは 年 組の教室です。」</p> <p>イ「ここは職員室です。」</p> <p>ウ「そこは保健室です。」 「保健室は一階です。」 「保健室の先生は 先生です。」</p> <p>エ「図書室は二階です。」</p> <p>オ「あそこは体育館です。」</p> <p>カ「階段を(のぼる/おりる)と二階です。」</p> <p>キ「〔トイレ〕はどこですか？」</p> <p>ク「 しては〔ろうかを走っては〕いけません。」</p> 	<p>「校内地図」を基に校内を巡る。この際、友だちと一緒に案内するなどして、友だちを作るという点にも配慮する。</p> <p>場所の名前は必要な箇所に留める。</p> <p>保健室では養護教諭を紹介する。</p> <p>疑問形もあわせて練習させる。</p> <p>【校内地図】 【名前カード】 【絵カード】</p> 
	学校で一日を過ごし、安全に登下校をするための言葉が分かる。	<p>登下校の時刻や一日の流れを知り、必要な言葉を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校時刻、下校時刻 ・朝の会、休み時間、帰りの会、放課後 <p>ア「 したいです。」</p> <p>イ「 しませんか？」 「あそびませんか？」</p> <p>通学路や通学方法などについて知り、必要な言葉を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路、登校班 ・信号、歩道、歩道橋、車道ガードレール <p>ア「あぶないです。」 「きをつけてください。」 「きをつけます。」</p> <p>イ「そこへ行ってはいけません。」 「はい、わかりました。」</p>  	<p>学校のきまりについては、必要な点に留め、順次付け加えて説明していくようにする。</p> <p>通学路については、実際に歩いてみたり、地図を見たりして、確かめさせる。</p> <p>近所に住む児童・生徒がいる場合には紹介する。</p> <p>【時間割表】 【連絡帳】 【地図】</p> 

過程	目標	学習内容・活動 「日本語例」	指導上の留意点 【教材・教具】
第二段階 一カ月目	自分のことや気持ちを伝えることができる。 (2)	<p>体の部位を表す言葉を使って自分の気持ちを伝える。</p> <p>ア「 が痛いです。」 「 がかゆいです。」 「 気分がわるいです。」 イ「 トイレへ行っていいですか?」 ウ「 水が飲みたいです。」 エ「 熱があるので、早く帰ります。」</p> <p>電話で学校に連絡するための言葉を覚える。</p> <p>ア「 年 組の です。 先生をお願いします。」 イ「 今日は なので休みます。」 「 なので遅刻します。」</p>	<p>体の部位(頭、おなか、手、足、目、鼻、口、歯など)を示しながら練習させる。</p> <p>学校への連絡方法や連絡帳の使い方については、保護者にも早めに知らせておく。おもちゃの電話などを使って、電話のかけ方について練習させる。</p> <p>【おもちゃの電話】</p> 
	学級内で活動したり、学習の準備をしたりするための言葉が分かる。	<p>学級内の活動に参加するための言葉を覚える。</p> <p>ア「 黒板(の字)を消します。」 「 電気を消します。」 イ「 いただきます。」 「 ごちそうさまでした。」 「 食べられません。」 「 おかわりをください。」 ウ「 [人參]は好きですか。」 「 はい、好きです。」 「 いいえ、きらいです。」 エ「 を飲みます。」 オ「 ほうきではきます。」 「 机をふきます。」 「 椅子を運びます。」</p> <p>学習の準備をするための言葉を覚える。</p> <p>・持ち物に名前を書く。 ア「 1時間目は算数(数学)です。 [三角定規]を使います。」 イ「 2時間目は体育です。 体操服を袋に入れます。」 ウ「 明日は [運動会]です。」 「 お弁当を持っていきます。」 エ「 (これ/それ)はわたしのものです。」 「 をかしてください。」 「 を忘れました。」</p>	<p>簡単な係を割り振り、学級の一員であるという意識を高めさせる。</p> <p>学校生活や日常生活で使える言葉を増やすため、給食や掃除の時間を積極的に活用する。</p> <p>学習の準備では、友だちと一緒に、教科書や学用品などを使って練習させる。</p> <p>学用品などで、母国とは異なる場合には、早めに保護者にも知らせる。</p> <p>物差し、三角定規 コンパス、分度器 体操服、絵の具セット 習字セット、裁縫道具 リコーダー、彫刻刀 給食衣 体育館履き 等</p> <p>【献立表】 【時間割表】 【学用品】</p> 
	学校行事に必要な持ち物を準備するための言葉が分かる。	<p>学校行事について知り、持ち物の準備をするための言葉を覚える。</p> <p>ア「 明日は遠足です。」 イ「 持っていくものは、お弁当、・・・です。」 ウ「 雨がふったら、遠足はありません。」</p> <p>曜日を表す言葉を覚える。</p> <p>ア「 月曜日は [消防署]にいきます。」 イ「 火曜日は [運動会]です。」</p>	<p>母国にない行事や用意するものなどがあるので、保護者にも早めに連絡する。</p> <p>雨具(傘)、タオル、敷物、ザック、水筒(ポット)、おやつ 等</p> <p>絵カードや絵本を活用して理解しやすいようにする。</p> <p>【絵カード】【写真】【絵本】 【行事予定表】【お知らせ】</p> 

過程	目標	学習内容・活動 (「日本語例」)	指導上の留意点 【教材・教具】
第三段階 二カ月目	ひらがなの読み書きができる。	<p>ひらがなの読み書きの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清音「あ」～「ん」のつく物の名前をあげながら、読み書きの練習をする。 <p>「これ・あれ・それ・この・あの・その」を使いながら練習する。</p> <p>ア「これはなんですか。」 「これは [あり] です。」</p> <p>イ「この字はなんですか。」 「この字は、[あり] のあです。」</p> <p>「ありのあ」 「いぬのい」 「うまのう」 「えんぴつのえ」 「おにのお」等</p> 	<p>絵カード、絵本、ひらがな練習帳などで練習させる。 低学年では、理解しやすいように、</p> <p>「ありのあ」 など身近な物と結びつけて指導する。 高学年では五十音順に読んだり書いたりさせる。 ローマ字が分かる場合には、ローマ字で読み方を書いて練習させる。</p> <p>【絵カード】 【絵本】 【ひらがな練習帳】</p> 
	ひらがなの読み書きができる。	<p>ひらがなの読み書きの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濁音、半濁音、撥音、促音、拗音、長音、拗長音の読み書きの練習をする。 <p>「かぎとかき」 「ねことねっこ」 「いしといしゃ」等</p> 	<p>絵カードや絵本を使ったり、しりとりやかるたをしたりしながらひらがなの読み書きの定着を図る。 清音とその他の音の違いを聞き分けて書けるように練習させる。</p> <p>【絵カード】【絵本】 【かるた】</p>


過程	目標	学習内容・活動 (「日本語例」)	指導上の留意点 【教材・教具】
第四段階 二カ月目	数字が読める。	<p>数字の読み方を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1～10 (一～十) ・ 10～100 (十～百) ・ 100～1000 (百～千) 	<p>数字カードを使いながら、学習状況に応じて「位」を上げていく。また漢数字についても同様に指導する。</p> <p>【数字カード】</p>
	身近な物の名前と数え方が分かる。	<p>身近な物の名前と数え方を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 果物、野菜、身の回りの物などの名前を覚える。 ・ 1本、1冊、1個、1枚などの数詞についても練習する。 <p>ア「みかんは3個で100円です。」 「えんぴつは1本50円です。」 「本は1冊500円です。」</p> <p>イ「いくらですか。」 「300円です。」</p> <p>ウ「何個ですか。」 「4個でいくらですか。」</p> 	<p>物の名前と文字とを結びつけながら練習させる。 給食に出る品などに関連づけて練習させる。 近くの店に行くなどして、実物に触れ、値段にも関心を持たせながら練習させる。 高学年以上では必要な漢字も併せて覚えさせる。</p> <p>【絵カード】 【ひらがなカード】 【漢字カード】 【給食の献立表】</p>



過程	目標	学習内容・活動 (「日本語例」)	指導上の留意点 【教材・教具】
第五段階 三カ月目	かたかなの読み書きができる。	かたかなの読み書きの練習をする。 ア「南アメリカにはブラジル、ペルー、アルゼンチン……があります。」 イ「ヨーロッパには、イギリス、フランス、スペイン……があります。」 ウ「レモンはすっぱいです。」 「赤いトマトはおいしいです。」 「私はオレンジジュースを飲みます。」 エ「私はバスにのりました。」 オ「私の(妹/弟)の名前は です。」	国の名前や身近な物の名前と結びつけながら、かたかなが使われる場面に関心をもたせる。 音楽の階名読み、児童・生徒や家族の名前などから始めたり、近くの店で「かたかな探検」をさせたりするなどの工夫をする。 【世界地図】 【絵本】 【音楽の教科書】 【かたかなカード】





過程	目標	学習内容・活動 (「日本語例」)	指導上の留意点 【教材・教具】
第六段階 三カ月目	日常生活で使ういろいろな言葉が分かる。	日常生活で使ういろいろな言葉を覚える。 ・色、動作、様子、味、時間、天候、12カ月と季節を表す言葉などを覚える。 ・関連する言葉や対になる言葉についても併せて練習する。 「あるとない」「大きいと小さい」 「暑いと寒い」「はやくとゆっくり」 「すきときらい」 「あまいとからい」 「おいしいとまずい」等	実物や写真などで示すとともに、動作をさせながら練習させる。 【色鉛筆・絵の具】 【折り紙】 【絵カード】 【時計カード】 【カレンダー】



過程	目標	学習内容・活動 (「日本語例」)	指導上の留意点 【教材・教具】
第七段階 四カ月目	文や詩の音読ができる。	ひらがなで書かれた文や詩を音読する。	「言葉遊び」の文章などで発音する楽しさを味わわせながら練習させる。 【言葉遊びの本】
	いろいろな言い方ができる。	いろいろな言い方を練習する。 ア尋ねる言い方 「 ですか。」 イ否定する言い方 「 ではありません。」 ウ肯定する言い方 「 です。」 エ存在を表す言い方 「 があります。」 オ指示する言い方 「 してください。」 カ過去のことを表す言い方 「 しました。」	実際の場面を設定しながら練習させる。 

過程	目標	学習内容・活動 （「日本語例」）	指導上の留意点 【教材・教具】
第八段階 四カ月目以降	まとまった話が書ける。	知っている単語を使って、まとまった話をする。 「 しました。」という言い方を練習する。 ア「わたしはきのういもうとと こうえんにあそびにいきました。 ともだちのさんがいました。 いっしょにあそびました。」	5W1Hが入る文章が言えるようにヒントを与える。 「体験したこと」「家族のこと」「好きなもののこと」などについて、知っている言葉を使って話を引き出すように工夫する。
	助詞を使った文が書ける。	助詞（「は」「へ」「を」など）に気をつけて文を書く。 ア「きのうわたしはかぞくと どうぶつえんにいきました。 おべんとうを たべました。」 	連絡帳などで児童・生徒の様子を知っておく。 話したことを文に書かせる。 主語と述語を組み合わせながら文を作らせる。 絵や写真を見せたり、動作をさせたりしながら、文を作らせる。 【絵カード】 

過程	目標	学習内容・活動 （「日本語例」）	指導上の留意点 【教材・教具】
第九段階	簡単な漢字の読み書きができる。	簡単な漢字の練習をする。 ・1年生で学習する漢字の読み書きの練習をする。	意味の分かる漢字から始める。 「とめ・はね・はらい」に注意して書かせる。 【漢字練習帳】【漢字カード】 【漢字絵カード】
	1年生の教科書の文章が読める。	1年生の教科書（国語）の文章を音読する。	児童・生徒の実態に合った内容の文章を選ぶ。 【1年生の教科書】 【言葉絵じてん】 



過程	目標	学習内容・活動 （「日本語例」）	指導上の留意点 【教材・教具】
第十段階	まとまった文章が書ける。	修飾語を使って、まとまった文章を書く。 ・出来事を書く。 ア「きのうえんそくにいきました。 いったばしょは どうぶつえんでした。 あさがっこうからバスにのって いきました。 バスの中で、おかしをたべたり、 うたをうたったりしました。 とてもたのしかったです。」	昨日の出来事について話をさせ、詳しく思い出してから、文章にまとめさせる。 

イ その後に

(ア) 小学校編

「ア はじめに」の第八段階以降と重複している箇所がありますが、教科学習につなげるための日本語指導として、小学校の学習指導計画という形でまとめました。



児童の発達年齢によって興味・関心も変わります。一人ひとりに応じた教材・教具を工夫してください。

過程	目標	学習内容・活動 (「日本語例」)	指導上の留意点 【教材・教具】
四ヶ月目以降	助詞の使い方が分かる。	助詞(「は」「へ」「を」「に」「で」など)を使って文を書く。 ・助詞を使っての文づくり 	絵や写真を見せたり、動作をさせたりしながら、文を作らせる。 主語と述語を組み合わせながら文を作らせる。 【絵カード】 【写真カード】
	まとまった文章が書ける。	修飾語を使って、まとまった文章を書く。 ・休み時間のこと ・昨日のこと ・家族のこと、友だちのこと ・学校行事	出来事について話をさせ、詳しく思い出してから、文にまとめさせる。
	漢字の読み書きができる。	漢字の読み書きの練習をする。 ・漢字のへんやつくり ・漢字の成り立ち ・1年生で学習する漢字の読み書き	意味が分かる漢字から始める。 部首を押さえながら進める。 漢字の由来・特質・構成などを説明しながら進める。 「とめ・はね・はらい」に注意して書かせる。 【漢字カード】 【漢字絵カード】
	1年生の教科書の文章が読める。	1年生の教科書(国語)の文章を音読する。	児童の実態に合った内容の文章を選ぶ。 【1年生の教科書】 【言葉絵じてん】
	いろいろな教科の学習内容が分かる。	いろいろな教科の学習をする。 ・算数の学習 ・社会の学習 ・理科の学習 ・テスト 	在籍学年までの学習内容が理解できているかを確認し、学習していない内容について指導する。 テスト用のプリントで日本語が分からない場合はふりがなをふったり、言葉を説明したりしながら行わせる。 高学年では社会の新聞づくり、理科の実験や観察記録の書き方なども指導する。 【算数・社会・理科の教科書】 【市や県の資料集】

(イ) 中学校編

「ア はじめに」と重複している箇所がありますが、教科学習につなげるための日本語指導として、中学校の学習指導計画という形でまとめました。

生徒の発達年齢によって興味・関心も変わります。一人ひとりに応じた教材・教具を工夫してください。

過程	目標	学習内容・活動 (「日本語例」)	指導上の留意点 【教材・教具】
一学期	学習の基礎を学ぶ。	ひらがなを書く。 かたかなの読み書きの練習をする。 小学校1年生の漢字の読み書きの練習をする。 文を話す。文を書く。 ・したこと、思ったことを話す。 ア「 (を) しました。」 イ「 だと思えます。」 ウ「 をしたいです。」	ゆっくり、ていねいに、大きく書かせて、きれいに書けるように練習させる。 覚えやすいものから始める。 筆順、はねなどについて詳しく指導する。 テストで理解度を確認する。 主語と述語、助詞を使って文を作らせる。 ジェスチャーを交えて話し、聞き取らせる。 【かたかなカード】 【漢字カード】 【漢字絵カード】
		助詞(「は」「へ」「を」「に」「で」など)を使って文章を作り、ひらがなで書く。 ・かぎ(「 」)の使い方	
		話を聞き取る。 ・動作を表す言葉 ・様子を表す言葉	
		算数の簡単な計算をする。 ・足し算、引き算、九九、かけ算、わり算	
二学期	学習の基礎を復習する。	読み書きの復習をする。 ・ひらがな、かたかなの読み書き ・小学校1年生の漢字の読み書き ・文を話す。文を書く。 ・話を聞き取る。	1学期の復習を兼ねて繰り返し練習させる。 理解度に応じて進め、できていないところをわかりやすく指導する。
		算数あるいは数学の復習をする。 ・算数：図形、グラフ、小数、分数	
	学習を発展させる。	小学校2年生の漢字の読み書きの練習をする。 ・2年生の漢字を使って文を話す。 ・2年生の漢字を使って文を書く。	漢字を徐々に増やしていく。  できていないところをわかりやすく指導する。
		小学校2年生の教科書の音読・書写をする。	
		小学校3年生の漢字の読み書きの練習をする。 ・3年生の漢字を使って文を話す。 ・3年生の漢字を使って文を書く。	
		小学校3年生の教科書の音読・書写をする。 小学校の算数あるいは数学の学習をする。	
三学期	これまでの学習内容について復習する。	ひらがな・かたかな・漢字について復習する。 ・ひらがな、かたかな ・小学校1年生、2年生、3年生の漢字 算数あるいは数学について、これまで学習した内容を復習する。 社会科、理科について、これまで学習した内容を復習する。	できていないところをわかりやすく指導する。 

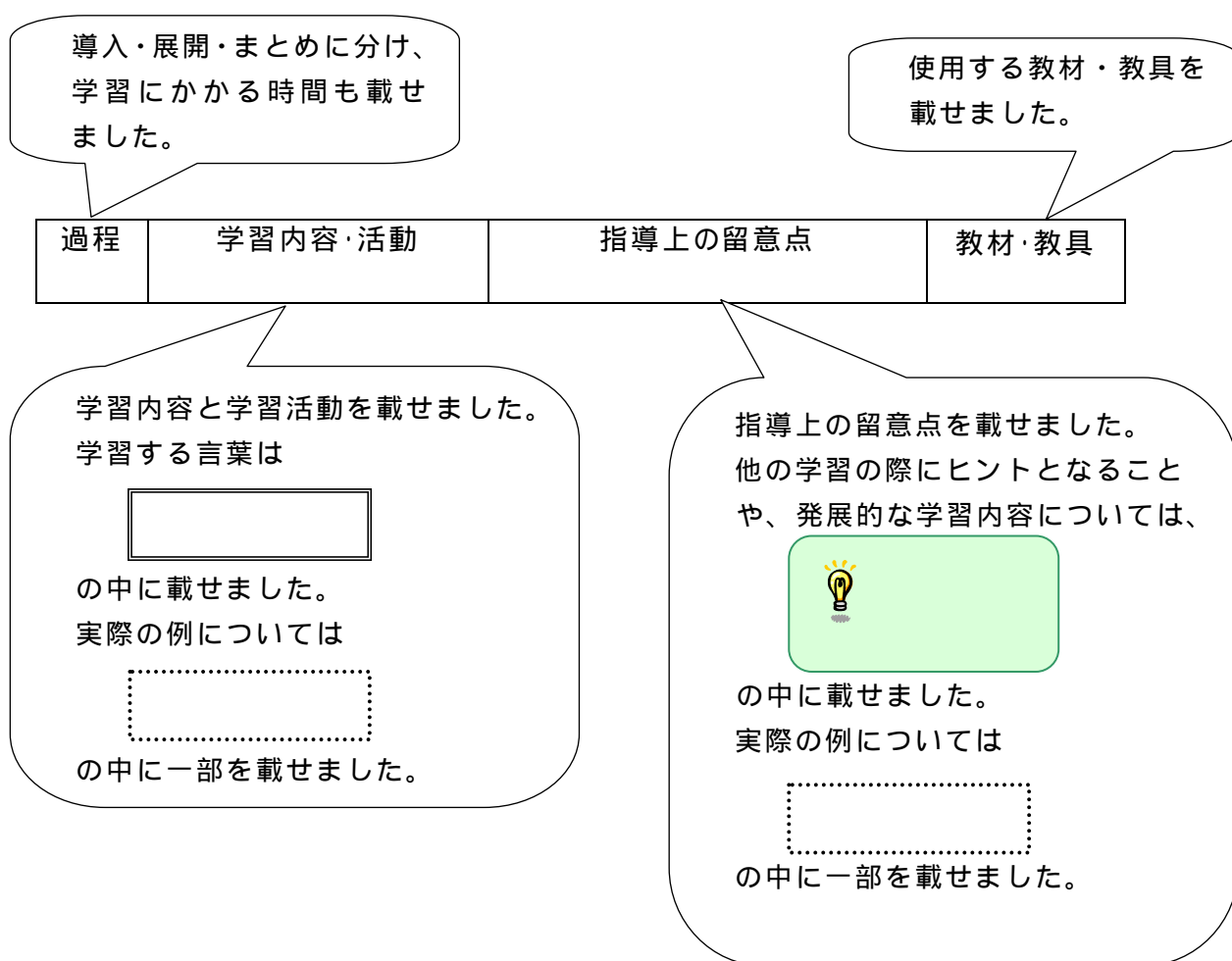
(2) 学習指導案(実践例)

学習指導案を作る

ここでは、「(1) 学習指導計画」に関する学習指導案を紹介します。

- ア 小学校編...二つの学習指導案を載せました。
イ 中学校編...二つの学習指導案を載せました。

この学習指導案は、実際の児童・生徒の状況に合わせて計画した実践例を基に作成していますが、教える際の参考になるように、留意点を詳しく載せました。また、他の学習の際にヒントになることや、発展的な学習内容についても載せてあります。



実際の指導にあたっては、母語・文化・学習歴・発達年齢・家庭環境などに配慮して、目の前にいる児童・生徒一人ひとりに応じた学習指導案を作成してください。

ア 小学校編

第二段階



< 学級内で活動したり、学習の準備をしたりするための言葉が分かる。 >





- 1 単元名 動作を表す言葉
- 2 単元の目標 学校生活や日常生活で使ういろいろな言葉の読み書きができるようになる。
- 3 単元の指導計画
 - 1 時間目 学校でよく使う言葉の意味を理解させ、覚えさせる。
 - 2 時間目 日常生活で使う言葉の意味を理解させ、覚えさせる。
- 4 対象 (小学校1年生と2年生 中国より来日 中国語 編入後2カ月)
(ひらがなの読み書きができる。)
- 5 本時名 学校生活でよく使う言葉
- 6 単元の目標 学校生活でよく使う動作を表す言葉を覚え、読み書きができるようになる。
- 7 指導計画

過程	学習内容・活動	指導上の留意点	教材・教具
導入 (10分)	動作を表す言葉を聞いて、その動作をする。 動作を表す言葉を覚える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 学校生活でよく使われる言葉 (10語程度) 「立つ」「座る」 「歩く」「走る」 「食べる」「飲む」 「見る」「聞く」 「書く」「読む」 「ふく」「はく」等 </div>	言葉を言いながら動作で示し、まねをさせる。 教師の指示で動作をさせる。 児童に動作を表す言葉を言わせ、教師が動作をする。 <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> * 実物を用意して、実際の場面と言葉とが結びつくように工夫する。 * 学校生活の中で使われている活用形や使い方を示すようにする。 </div>	本(教科書) ノート コップ ほうき ぞうきん 等
展開 (25分)	カードに書かれている言葉や絵の意味を理解する。 ・【絵カード】の動作を表す言葉を声に出して言う。 ・【文字カード】を読み、動作で表す。 カードを使ってゲームをする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 0 10px;">は し る</div> </div>	カードの意味を理解させる。 【文字カード】と【絵カード】を裏返しにおき、【文字カード】【絵カード】を1枚ずつめくり、一致させる。めくるたびに、発音と動作によって、児童が理解しているかどうかを確認する。 <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> * 音・文字・動作が一致するように、なおかつ楽しみながら繰り返すように工夫する。 </div>	絵カード 文字カード
まとめ (10分)	動作を表す言葉を文字で書く。 書いた言葉を音読する。	動作を見せて、文字を書かせる。 書けなければ、【文字カード】を見て書かせる。 動作をさせながら読ませる。	ノート 文字カード

第十段階 <まとまった文章が書ける。>

- 1 単元名 文章を書く
- 2 単元の目標 まとまった文章が書けるようにする。
- 3 単元の指導計画 昨日の出来事を思い出させて、修飾語を使ったまとまった文章を書かせる。
- 4 対象 (小学校2年生 ブラジルより来日 ポルトガル語 編入後3カ月)
(ひらがな・かたかなの読み書きができる。)
- 5 本時名 日記を書く
- 6 本時の目標 昨日の出来事を思い出して、日記が書けるようになる。
- 7 本時の指導計画

過程	学習内容・活動	指導上の留意点	教材・教具
導入 (5分)	<p>「持ってきました。」 「持ってきませんでした。」 の言い方を練習する。</p>	<p>教室からどのような学習道具を持ってきたかについて、質問に答えられるように練習させる。</p> <p>例) 教師「国語の教科書を持ってきましたか。」 児童「持ってきました。」 教師「算数の教科書を持ってきましたか。」 児童「持ってきませんでした。」</p>	
展開1 (10分)	<p>昨日の出来事を自分の知っている言葉を使って話す。 ・カレンダーで「きのう」を指し示す。 ・カレンダーの見方を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>カレンダーで確認する言葉</p> <p>月、日、曜日 今日、昨日、明日</p> </div>	<p>「きのう、どこへ行きましたか。」と質問して、昨日の出来事を話させる。 「きのう、どこへ行きましたか。」の質問に答えられなかった場合には、【カレンダー】を使って、まず「きのう」の意味を理解させる。</p> 	カレンダー
展開2 (10分)	<p>日記を書く。</p> <p>例) 1がつ13にち かようび きのう、わたしはびょういんへいきました。かっこうをやすみました。 ママとびょういんへいきました。</p> <p>書いた日記を音読する。</p> <p>例) ・「がっこう」が「かっこう」になっていた事に気づく。</p>	<p>文の終わりには句点(。)をつけさせるようにする。</p> <p>自分の書いた日記を読ませ、間違った所をなおさせる。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> * 音読することにより間違いに気づくことも多いので、声に出して読ませるようにする。</p> </div>	ノート



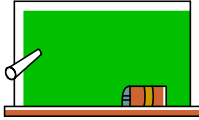
過程	学習内容・活動	指導上の留意点	教材・教具
展開3 (5分)	日記に書いた事について、質問に答える。	日記から質問文を作り、答えさせる。 例) 「きのうどこへ行きましたか。」 「誰と行きましたか。」 「きのう学校へ来ましたか。」	
展開4 (10分)	日記に絵をかく。 例) 自分とママの絵を書く。 	【色鉛筆】で書かせる。 【色鉛筆】の色の名前を言いながら書かせる。  <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;">  * 日記に出てきた言葉に関連する言葉を言わせる。言った後に、書かせる。 </div> 例) ・衣服の種類を表す言葉 (手ぶくろ、くつしたぼうし、ズボン) ・体の部位を表す言葉	ノート 色鉛筆
まとめ (5分)	カレンダーの見方を復習する。 ・カレンダーに【カード】をはる。 (今日、昨日、明日) ・曜日を声に出して言う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 曜日 「月曜日」 「火曜日」 「水曜日」 「木曜日」 「金曜日」 「土曜日」 「日曜日」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> カレンダーで覚える言葉 今週、先週、来週 今月、先月、来月 </div>	任意に読み上げ、児童に【カード】を選ばせ、【カレンダー】にはらせる。はった後に声に出して読ませる。曜日を言わせる。 <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;">  * 【カレンダー】を黒板にはっておき、【カード】をはる練習がすぐにできるようにしておく。数日間は繰り返し行う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【マグネットシート】で【カード】を作っておく。 (「今日」「昨日」「明日」 「今週」「先週」「来週」) </div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;">  * 児童の学習状況を見ながら、簡単な漢字も併せて学習させる。 今日、昨日、明日 月～日曜日 </div>	カレンダー カード

イ 中学校編

第六段階 <日常生活で使ういろいろな言葉が分かる。>

第八段階 <助詞を使った文が書ける。>




- 1 単元名 日本語の語彙を広げる
- 2 単元の目標 語彙を広げ、いろいろな言葉を使えるようにする。
- 3 単元の指導計画 日本語の学習を続けてきた中で、知っている言葉（名詞・動詞・形容詞など）を使ってしりとりをさせる。
しりとりに出てきた言葉を使って、短い文を作らせる。
- 4 対象 （日本語学習の進度が違う複数の生徒）
- 5 本時名 しりとり
- 6 本時の目標 今までに習った日本語を使ってしりとりができるようになる。また、しりとりに出てきた言葉を使って文を作ることができる。
- 7 指導計画

過程	学習内容・活動	指導上の留意点	教材・教具
導入 (5分)	<p>黒板を使ったしりとりの仕方を理解する。</p> <p>・順番とルールを決める。</p> <p>例) リンゴ </p> <p>ゴリラ</p> <p>ラテンダンス</p> <p>すき </p> <p>きりん</p> <p>リマ</p> <p>マンゴ 等</p>	<p>「ん」で終わる言葉が出たときは、その前の語からつなげるルールでしりとりをする。</p> <p>言った言葉は黒板に書かせる。</p> <p>教師はヒントを出す立場として関わる。</p> <p>日本語学習の進度に応じて、ヒントをもらう回数を決めさせる。</p> 	黒板 言葉カード 漢字カード
展開 (30分)	<p>黒板を使って、しりとりをする。</p> <p>・言葉にできないときは、身振り手振りを使って、言葉の意味を表現する。</p>	<p>できるだけ多くの言葉を使ってしりとりができるように、ヒントを工夫する。</p>	
まとめ (15分)	<p>黒板に書かれた言葉を使って短い文を考える。</p> <p>考えた文を声に出して言う。</p>	<p>言葉から文を組み立てる練習をさせる。</p>	

第八段階 <助詞を使った文が書ける。>

第九段階 <簡単な漢字の読み書きができる。>

- 1 単元名 漢字学習と作文
- 2 単元の目標 読める漢字を使って文を作れるようにする。
- 3 単元の指導計画 漢字カードを使って漢字を読ませ、読める漢字を組み合わせて文を作らせ、それを書かせる。
- 4 対象 (中学校3年生 ペルーより来日 スペイン語 来日後2年6カ月)
(会話で日本語を使うことが少なく、スペイン語を使うことが多かったが、最近では日本語を使った会話ができるようになってきた。)
- 5 本時名 漢字を使った文
- 6 本時の目標 読める漢字や熟語を使って文が作れるようになる。
- 7 指導計画

過程	学習内容・活動	指導上の留意点	教材・教具
導入 (15分)	漢字カードの中から、読める漢字をいくつか選ぶ。 読める漢字を机に並べて、組合せを考える。	ゲームのように楽しくできるよう、カードを活用する。 できるだけ多くの言葉を選べるように、【絵カード】も加える。 	漢字カード 絵カード
展開 (20分)	何枚かのカードを組み合わせて文を作る。 作った文を声に出して言う。	助詞の使い方に注意させる。	
まとめ (15分)	作った文を一文ずつ書き、音読する。 出来上がった文を組み合わせながら、文章を作る。	書いた文については、一文ずつ音読させる。 <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;"> * 音読することにより、間違いに気づくことも多いので、声に出して読ませるようにする。</div> カードの組合せでいろいろな文が作れることを理解させる。 <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;"> * 生徒の学習状況を見ながら、併せて漢字練習をさせる。</div> 生徒が作った文に出てきた漢字は、次の時間にテストで理解度を確認する。	作文用紙

シラバスとカリキュラム

日本語教育では、「何を」に当たる部分を「シラバス」と言い、「いつ・どのように」に当たる部分を「カリキュラム」と言い、「シラバス・デザイン」「カリキュラム・デザイン」という言葉が使われています。シラバスには、例えば次のような種類があります。

構造(的)シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・文法や文型で配列したシラバス。 ・文法項目で構成したシラバスを「文法シラバス」、文型で提示したシラバスを「構造シラバス」と区別して呼ぶこともある。
場面(的)シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者がコミュニケーションを必要とする場面を配列したシラバス。 ・例としては、「郵便局で」「デパートで」などが挙げられる。
機能(的)シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉をどういう目的で使うかといった、言語のコミュニケーション上の機能から構成したシラバス。 ・例としては、「依頼」「拒絶」「感謝」「禁止」などが挙げられる。
話題シラバス (トピック・シラバス)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の学習目的となっている話題を配列したシラバス。 ・例としては、「趣味」「文化」「政治」などが挙げられる。
タスク・シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・成し遂げるべき課題(タスク)を配列したシラバス。 ・例としては、「電話をかけて必要な情報を得る」などが挙げられる。
技能シラバス (スキル・シラバス)	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の四つの技能(「聞く、話す、読む、書く」)のそれぞれの下位技能(マイクロ・スキル)について、学習者の具体的使用目標(「紹介状を書く」など)から必要なスキルを集めて配列したシラバス。
概念シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の概念を教授項目としたシラバス。 ・例としては、「時間」「頻度」「量」「順序」などが挙げられる。

文部科学省では、シラバスについて次のページで説明しています。

文部科学省「大学における教育内容・方法の改善等について」より

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daiigaku/04052801/003.htm



「シラバス」とは？

学習指導計画を立てる際には、シラバス(「何を」)の他に、目標・時間・教授法・教室活動・教材や教具・評価などについて考えることとなります。教授法にはいろいろな種類があり、分類や名称には諸説ありますが、例えば次のようなものが挙げられます。

文法訳読法	<ul style="list-style-type: none"> ・文法を教え、文法と辞書をたよりに文を母語に訳させる方法。
直接法	<ul style="list-style-type: none"> ・媒介語を使わずに教える教授法の総称であるが、単に「媒介語を使用しないで教える」という意味で使われることも多い。 ・「オーラル・メソッド」(「話す・聞く」技能の習得を重視した方法)などがある。
オーディオ・リンガル・アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・構造的なシラバスで項目の順序づけを行い、繰り返し発話させること(反復練習)を重視した方法。
コミュニケーションタイプ・アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・教室活動の中で、現実に起こりうる場面を想定したコミュニケーション活動を取り入れ、伝達手段として言葉を使うことを重視した方法。
ナチュラル・アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・不安のないリラックスした状況の中で、理解しうる程度の言葉を与えて、聞いて理解する力をつけさせ、話せるようになることを重視した方法。
トータル・フィジカル・リスポンス(TPR)	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を聞かせて、学習者に動作で応えさせ、言葉を覚えさせる方法。 ・学習者にはまず聞き取りに集中させ、音声に十分に慣れさせる。その後で発話をさせるようにする。

学習指導計画を立てる

目標

何を学習したらよいか分かることで、目標を持って学ぶことができます。目標があることで安心して学ぶことができたり、励みになったりします。学習の目標を児童・生徒に伝えることは大切です。ただし、学習の進み具合には個人差がありますので、目標に届かなかった場合の配慮も必要です。

個人差があるので一概には言えませんが、第二言語の学習が苦手な子どもの場合、1授業時間で新たに学習する言葉は、仮名だと10文字、漢字だと5文字程度になります。

言葉が使われる場面を具体的に示した方が理解は深まります。例えば、「走る」は体育で、「読む」は国語でよく使う言葉であるといった例を示すなどの工夫をしてみましょう。

学習場面で使う形と普段使っている形が違くと別の言葉だと認識する場合があります。学校生活で使われている形と併せて、具体的に示すことも必要となります。

話している言葉や読んでいる言葉でも、正確には発音できていないことや意味を理解できていないことがあります。文字で書かせることで、発音の誤りや理解度が分かります。この他にも、例えば、「発音している単語」「写真・絵・動作」「文字」を結びつけることができるようにさせるなどの工夫をしてみましょう。

区別が難しい「濁音・半濁音」「長音(のばす音)」、聞き取りづらい「撥音(“ん”)」、発音が難しい「促音(つまる音、小さく書く“っ”)」「拗音(小さく書く“ゃ”“ゅ”“ょ”)」「拗長音」なども、書くことにより間違いに気づくことがあります。

日本語の特徴(文字を中心とした言語であり、表意文字である漢字を使い、同音異義語が多くある等)により、日本語を母語とする児童・生徒だけでなく、日本語を母語としない児童・生徒が「日本語」を学習する場合には、文字(特に漢字)の習得が課題となります。繰り返し学習する機会を用意し、ワープロソフトの漢字への変換機能を使うなどの工夫もしてみましょう。



第二言語の学習においては、何度も繰り返すことで定着が図られます。かといって、単調な繰り返しでは、学習意欲が低下してしまうことがあります。あきないでできるような工夫が必要です。例えば、ゲーム(かるた、しりとり、すごろく)を取り入れるなどの工夫をしてみましょう。

第二言語

最初に習得する言語を「第一言語」または「母語」と言います。第一言語の次に、意識的に学習する言語を「第二言語」と言います。なお、「媒介語」とは、第二言語を学習する際に、意味や文法の説明に使われる言語のことで、通常は学習者の母語が使われます。

日本に住んで生活の手段として習う日本語を「JSL」(Japanese as a Second Language: 第二言語としての日本語)と言います。海外で外国語の科目として習ったり、短期滞在で習ったりする日本語を「JFL」(Japanese as a Foreign Language: 外国語としての日本語)と言います。

外国籍等の児童・生徒が日本語を学習する場合には「第二言語」を学ぶということになりますので、日本語を母語とする児童・生徒が「国語」を学ぶ場合とは区別して考える必要があります。また、母語は、アイデンティティーや親子などのコミュニケーションに深く関わっています。児童・生徒の母語の種類や習得状況を把握し、日本語学習の中で使う機会を設けるなどしましょう。

2 日本語指導 その2 教科学習のための日本語

(1) 教科学習のために

生活言語と学習言語

「1 日本語指導 その1」では、外国籍等の児童・生徒を対象に、はじめて学ぶ日本語の学習指導計画を紹介しました。日本語で日常会話ができるようになり、学校生活でも先生や友だちとのコミュニケーションが円滑に行われるように、学習指導を進めていきます。学校教育では、こうした「生活言語」（日常場面で使われる言語）の習得だけでなく、「学習言語」（学習場面で使われる言語）の習得に向けた日本語指導の必要があります。日本語を母語としない児童・生徒は、はじめは原学級（所属学級）で授業を受けるのではなく、「取り出し指導」として個別に日本語を学習する場合もあるでしょう。最終的には、自分のクラスで友だちと一緒に授業を受け、学習内容が理解できるようになることを目指します。そのためには、学習言語を学ぶ必要があります。学習言語は生活言語よりも難しいものです。子どもはすぐに言葉を覚えてしまうように感じますが、だからと言って、学習言語が理解できるとは限らないのです。

学習言語としては、授業中にだけ使われている言葉や、教科に関する専門用語などが挙げられます。教科学習では、抽象的・概念的な内容も多く、それらを言葉や記号を通して理解していくことになります。

学習内容が具体から抽象へと進む小学校4年生ぐらいから特に難しくなるようです。また、社会科や理科は専門用語が多いので難しいようです。

教科学習の内容については、理解度を確かめながら、必要に応じて「取り出し指導」をしたり、教科書・試験問題などにルビや注、訳語をつけたりするなどの配慮が必要となります。

母語で理解できている言葉や事柄については、辞書などを使って、日本語を母語に置き換えることで理解することができます。

母語で理解していない言葉や事柄については、実物・写真・絵などを使うなどして、できるだけ具体的に示すように工夫しましょう。



ここでは、国際教室や「取り出し指導」などで行われている実践例を基に、教科指導のための日本語指導に関する学習指導案を紹介します。

(2) 学習指導案...次の二つからなっています。

ア 小・中学校では...小学校編として二つ、中学校編として一つの学習指導案（実践例）を載せました。



イ 高等学校では...高等学校編として二つの学習指導案（実践例）を載せました。

(2) 学習指導案(実践例)


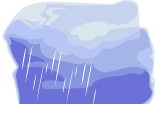
ア 小・中学校では





(ア) 小学校編

- 1 単元名 だれだかわかるかな
- 2 単元目標 ひらがなで書かれた文章が読めるようにする。
- 3 単元の指導計画 『こくご1ねん(上)かざぐるま』(光村図書)
1時間目 「あげはちょう」(本時)
2時間目 「しおからとんぼ」
3時間目 「かぶとむし」
- 4 対象 (小学校4年生 アルゼンチンより来日 スペイン語
編入後10カ月)(ひらがな・かたかなの読み書きができる。)
- 5 本時名 「あげはちょう」を読む
- 6 本時の目標 「あげはちょう」の文章を読んで、内容が理解できる。
- 7 本時の指導計画

過程	学習内容・活動	指導上の留意点(支援・評価)	教材・教具
導入 (5分)	「あげはちょう」の文章を声に出して読む。	ひらがなだけで書かれている文章なので、特に濁音・促音・拗音が正しく読めているかを確認する。	1年生教科書(国語)
展開1 (15分)	文の意味を読み取る。 ・色や動作を表す言葉から、あげはちょうの様子や動きを読み取る。 ・色を表す言葉 例)「くろい」 ・動作や様子を表す言葉 例)「くるくると」「まるまる」「すう」 	色を表す言葉が出てきたら、その色を色鉛筆などで選ばせ、その後写真で実際の色と比較して、正しいかどうかを確かめさせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;">  *写真で使われている他の色も見せながら、色に関する言葉を覚えさせるようにする。 例)「緑」「白」「ピンク」 </div> 図鑑や挿絵のあげはちょうの「くち」を実際に見せて、理解させる。 動作や様子を表す言葉が出てきたら、その動作を実際にさせながら、意味を理解させるようにする。 意味がわかりにくい言葉については、母語のスペルを教科書に書くなどして、母語を併用させながら理解させる。 例)・「だれ」 スペイン語【quien】 ・「みつ」 スペイン語【miel】	色鉛筆 図鑑 辞書 (スペイン語辞書)
展開2 (5分)	文章を音読する。	教科書に丸印()を三つ書き、1回読んだら一つの丸印をぬらせる。	
展開3 (10分)	文章を書写する。	教科書を見ながら文を書かせる。 できるだけ一文ずつ文を覚えて書かせる。	ノート
まとめ (10分)	書写した文章を音読する。 文章を読んで感じたことを話す。	正しく書けているか確かめながら読ませる。 説明が難しいようであれば、印象に残った言葉や文を挙げさせたり、質問をして答えさせたりする。	

- 1 単元名 たんぼぼのちえ
- 2 単元の目標 説明文が読めるようにする。
- 3 単元の指導計画 『こくご2ねん(上)たんぼぼ』(光村図書)
 - 1時間目 新出漢字の読み方を理解させる。全文を通読させる。
 - 1～4時間目 文章の内容を読み取らせる。
- 4 対象 (小学校2年生 日本生まれ 家庭ではスペイン語・カンボジア語)
- 5 本時名 たんぼぼの「たねを太らせるちえ」
- 6 本時の目標 「たんぼぼのたね」を読んで、「たねを太らせるちえ」とはどのようなものかを理解できる。
- 7 本時の指導計画

過程	学習内容・活動	指導上の留意点(支援・評価)	教材・教具
導入 (10分)	<p>新出漢字について、【漢字カード】を順に声に出して読む。</p> <p>例)</p> <p>「黄色い」 「太らせる」 「わた毛」 「高く」 「当たって」 「晴れて」 「多い」等</p> 	<p>語彙を広げさせるために、補足説明をしながら進める。</p> <p>例)・「黄色い」 様子を表す言【言葉カード】の裏に、黄・赤・青の色を付けておき、どれが黄色かを当てさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「太らせる」 「大」「犬」やそれらと似た字と比較させて覚えさせる。 ・「わた毛」 「毛」だけの場合には、「け」と読むことを理解させる。 ・「高い」「多い」「新しい」 対になる言葉と関連づけて理解させる。 (「低い」「少ない」「古い」) ・「晴」 関連のある言葉も併せて覚えさせる。 (「雨」「曇」) 	<p>2年教科書(国語)</p> <p>漢字カード 言葉カード</p>
展開1 (20分)	最初の段落を音読する。	<p>動作を表す言葉が出てきたら、その動作を実際にさせながら、意味を理解させるようにする。</p> <p>読めた言葉には自分の色の合格シールをはらせるなど、学習意欲が続くように工夫をしながら意味を理解させる。</p>	シール

過程	学習内容・活動	指導上の留意点（支援・評価）	教材・教具
	<p>[たねを太らせるちえ]がどのようなものかを読み取る。</p> <p>・季節を表す言葉 例) 「夏」「冬」 「春」「秋」</p>  <p>・様子を表す言葉 例) 「黄色い」 「しずかに」</p> <p>・動作を表す言葉 例) 「さきます」 「しぼんで」 「たおれて」 「かれて」</p>	<p>季節を表す言葉の意味を理解させる。</p> <p> * 国によっては夏と冬が逆だったり、四季がはっきり分かれていなかったりする場合もあるので写真などで説明する。</p> <p>植物については、実物が写真を見せる。</p> <p>例) たんぽぽ 校庭に咲いているたんぽぽを見せる。又は教科書の挿絵を見せる。</p> <p> * 花に関する言葉も挿絵などで見せ、併せて覚えさせる。 (葉、つぼみ、たね)</p> <p>様子を表す言葉を取り上げ、意味を理解させる。</p> <p>例) 「黄色い」 実際に色を見せる。 その後、「い」がつくと様子を表す言葉になることを理解させる。</p> <p> * 様子を表す言葉を意識させるために、 「どんな花ですか？」と質問して、答えさせる。</p> <p>動作を表す言葉は、その動作を実際にさせながら意味を理解させる。</p> <p>例) 「さきます」 つぼみが開く様子を手で表す。</p> <p>時間の経過を表す言葉(例「二、三日たつ」)は、カレンダーで意味を理解させる。</p> <p>わかりにくい箇所は詳しく説明する。 例) 「けれども」 「したのではありません。」</p> <p>抽象的な言葉(例「えいよう」など)は、母語に置き換えて理解させる。</p>	<p>写真(四季)</p> <p>たんぽぽ 図鑑</p> <p>カレンダー</p> <p>辞書</p>
展開2 (10分)	[たんぽぼのちえ]の一つ目について、どのようなものかを考える。	一文目から順に読ませながら、動作を何回か繰り返させ、「たねをどんどん太らせるちえ」がどのようなものかについて読み取らせる。 たんぽぼは地面にたおれてから何をしているのかについて考えさせる。	
まとめ (5分)	音読する。	内容を確認めながら読ませる。	

(イ) 中学校編

- 1 単元名 地理的分野 世界の国々
- 2 単元目標 外国籍等の生徒の母国を通して地理的知識を広げ、世界地図の見方を理解できるようにする。
- 3 単元の指導計画 地球儀・世界地図・地図帳を使って地図の見方を理解させる。
日本への道のりを地図上でたどりながら、地理的な感覚を身に付けさせ、知識を広げさせる。
- 4 対象 (中学校2年生 ペルーより来日 スペイン語 来日後5年)
(日本語の習得も早く、1年生の時からほとんどの授業を自分のクラスで受けているが、社会科・理科の学習言語の理解が十分ではないため、週に1時間ずつ「取り出し指導」で、教科書を中心に復習及び予習を行っている。1年生の時の社会科はほとんど理解できなかったため、1年生の学習内容の復習を中心に行っている。)
- 5 本時名 世界地図の見方や大陸・海洋について知る。
- 6 本時の目標 大陸名や海洋名を覚え、世界地図が読めるようになる。
- 7 本時の指導計画

過程	学習内容・活動	指導上の留意点(支援・評価)	教材・教具
導入 (15分)	自分の国〔ペルー〕の様子を話す。 例) ・どのような国か。 ・暖かいか、寒いか。 ・旅行をしたときの様子は。 ・日本に来るときのルートは。	世界地図や地球儀を使って説明させる。	地球儀 世界地図
展開1 (15分)	大陸名・海洋名について、母語での呼び名と比較しながら、日本語での呼び名を覚える。	母語での呼び方を辞書で確かめながら、日本語での呼び名を覚えさせる。	教科書 地図帳 辞書 (和西辞書) (西和辞書)
展開2 (15分)	地図の約束事を理解する。 約束事 縮尺 方位 緯線 経線 時差	時差については体験を基に理解を深めさせる。 例)ペルーの親戚と電話をするときの時間の違いに気づかせる。	
まとめ (5分)	大陸名・海洋名を日本語で言いながら、名前が表す場所を地図で示す。	発音に注意させる。	

JSLカリキュラム

文部科学省

「学校教育におけるJSL(第二言語としての日本語)カリキュラムの開発」事業

文部科学省では、外国人児童・生徒等に対する日本語指導等の取組を支援するため、平成13・14年度の2カ年の計画で、「学校教育におけるJSL(第二言語としての日本語)カリキュラムの開発」事業を実施しました。

平成13・14年度の2年間で、小学校における教科学習に対応した日本語指導カリキュラムを開発しました。平成15・16年度は、中学校レベルのJSLカリキュラムの開発を行うとしています。

小学校編については、中間まとめと最終報告をインターネットで公表しています。

2002年「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(中間まとめ)」
の公表について

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/14/08/020823.htm

2003年「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(最終報告)」
- 小学校編 - の公表について

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/07/03070202.htm

中間まとめでは、小学校段階における活動をベースとした「トピック型」JSLカリキュラムを公表しています。

最終報告では、小学校の国語・社会・算数・理科の各教科の学習に対応した「教科志向型」JSLカリキュラムを公表しています。

「トピック型」JSLカリキュラムでは、各教科に共通の学ぶ力の育成をめざして、「体験」「探求」「発信」という三つの局面について、観察・情報の収集・思考・推測・類推・統合・評価といった教科学習の基礎となる活動を組み立て、その成果を日本語で表現できるようにすることをねらいとしています。

「学習活動のレベル」(レベル1～3)と学習活動の展開(体験、探究、発信)とを組み合わせ、それぞれのレベルについてトピックと活動を設定し、設定された学習活動の道具となる日本語表現(バリエーション)を選択するようになっていきます。



「教師・指導者」のカリキュラムづくりを支援するツールとして「AUカード」を提案しています。学習活動の各局面を構成する活動単位(Activity Unit)ごとに、それぞれの活動を行うために必要な日本語表現のバリエーションを組み合わせたものが「AUカード」です。


「教科志向型」JSLカリキュラムは、各教科の授業の構造に応じ、各教科の学習活動に日本語で参加するための力(=各教科における「学ぶ力」)の育成を目指すものです。



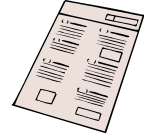
体験等から各教科の知識、概念等の理解に至る学習の過程で、子どもの理解に応じたきめ細かな学習支援と日本語支援を行うためのカリキュラムです。

国語・社会・算数・理科の四つの教科を取り上げています。

イ 高等学校では


- 1 単元名 評論
- 2 単元の目標 日本語運用能力(文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力)を高め、日本事情をより深く理解できるようにする。
- 3 単元の指導計画 『国語総合』筑摩書房
「水の東西」
「こころの情報学」
- 4 対象 (中級日本語の学習を終えた学習者)
(高等学校の複数の生徒 中国より来日 中国語 中学校で日本語を学ぶ。)
- 5 本時名 「水の東西」(全3時間のうちの1時間目)
- 6 本時の目標 正確な発音・アクセントで読むことができる。
本文を最後まで通して読むことができる。
第一段落の語句の意味が理解でき、重要な箇所を指摘できる。
「鹿おどし」が意味している事柄を理解できる。
- 7 本時の指導計画




過程	学習内容・活動	指導上の留意点 [評価]	教材・教具
導入 (15分)	自己紹介をする。 自分の国〔中国〕について説明する。 相手の質問や説明を聞き取り、内容を理解する。	文化についての文章を読むことを伝え、必要に応じて質問する。 [評価例] 自分の国について、どのような国が説明できる。 自分の国と日本との違いについて説明できる。 相手の話を要約して、述べるができる。	地図帳
展開1-1 (25分)	本文の読みを聞く。 ・読み方がわからない漢字には、教科書にルビを振る。 本文を音読する。 	発音やアクセントにも注意を向けさせる。 [評価例] 全文を通して読むことができる。 意味のまとまりで区切って読むことができる。 漢字を正しく読むことができる。	
展開1-2 (10分)	本文を意味段落に分ける。	キーワードや接続語句に気をつけながら、段落に分けさせる。 [評価例] 意味段落に分けることができる。	

過程	学習内容・活動	指導上の留意点 [評価]	教材・教具
展開2-1 (35分)	<p>二つの形式段落について、語句の意味を調べ、理解する。</p> <p>例)</p> <p>「鹿おどし」 「笕」 「愛嬌」 「けだるさ」 「緊張が高まる」 「ぐらり」 「無限」 「ほどける」 「徒労」 「時を刻む」 「静寂」 「いやがうえにも」 「かえって」等</p>	<p>辞書(国語辞書・日中辞書・中日辞書)を使いながら、語句の定着を図る。</p> <p>言葉だけでイメージできない場合は、百科事典などで絵を見せて意味を理解させる。</p> <p>辞書に載っていない語句については、黒板に図を書くなどして、説明を加える。</p> <p>[評価例] 語句の意味を自分の言葉で説明できる。 説明できない語句は、自分で辞書を引いて意味を調べることができる。</p> 	国語辞書 (日中辞書) (中日辞書) 百科事典
展開2-2 (10分)	<p>二つの形式段落(第一段落:「鹿おどし」について書かれている部分)の内容を理解する。</p> 	<p>キーセンテンスとそれを補足する文とに分けさせることによって、段落中の文の構造を理解させる。</p> <p>[評価例] 第一段落は、「鹿おどし」が日本の水の代表として紹介され、それが強調していることがらを指摘できる。</p>	
まとめ (5分)	<p>第一段落を音読する。</p> 	<p>難しい言葉が正しく読めているかを確認する。</p> <p>例) 「鹿おどし」「笕」「愛嬌」</p> <p>重要な漢字については、次の時間にテストで理解度を確認する。</p> <p>[評価例] 流暢に読むことができる。 意味を考えながら読み、この段落で重要な箇所がどこかを指摘できる。</p>	

- 1 単元名 日本事情を理解する
- 2 単元の目標 日本語運用能力(文章の論理展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力)を高め、日本事情をより深く理解できるようにする。
- 3 単元の指導計画 生徒の興味・関心に応じて教材を選び、日本事情をより深く理解させる。
『中・上級用日本語テキスト 日本社会と経済を読む』(研究社)
第4課、第8課～第10課、第13課、第15課、第19課、第20課
- 4 対象 (中級日本語の学習を終えた学習者)
(高等学校の生徒 ブラジルより来日 ポルトガル語 中学校で日本語を学ぶ。)(日本で働いた経験がある。)
- 5 本時名 第20課「変化する日本の会社組織」(全3時間のうちの1時間目)
- 6 本時の目標 日本の会社組織を説明する際によく使われる語句について、ルビがなくても読むことができる。また、正確な発音・アクセントで読むことができる。
本文を通読できる。
第一段落の語句の意味が理解でき、重要な箇所を指摘できる。

7 本時の指導計画

過程	学習内容・活動	指導上の留意点 [評価]	教材・教具
導入 (15分)	日本の会社のイメージを話す。 自分の国[ブラジル]の会社について知っていることを説明する。 日本で働いていたときの様子を話す。 	説明が難しいようであれば、質問をして、それに答えさせる形で話を進めるようにする。 [評価例] 母国にいたときにイメージしていた日本の会社について、述べることができる。 自分の国の会社について説明できる。特に日本の会社組織とは異なる点について説明できる。	地図帳 資料 (政治・経済)
展開1-1 (10分)	[知っておきたい語句] を声に出して読む。 例) 「日本的経営」 「抜本の見直し」 「余儀なくされた」 「終身雇用」 「年功序列」 「経営コンサルタント」 「高度成長」等	範読し、その後2回読ませる。 発音やアクセントにも注意を向けさせる。 例) ・「日本」と「日本的」で、「ニホン」のアクセントが異なることを理解させる。 ・「経営」の発音は、「ケイエイ」ではなく「ケーエー」であることを理解させる。	

過程	学習内容・活動	指導上の留意点 [評価]	教材・教具
展開1-2 (20分)	<p>本文の読みを聞く。 ・その際「終身雇用」に下線を引く。</p>  <p>本文を音読する。</p>	<p>範読の際に、「終身雇用」という言葉の下には線を引かせ、キーワードであることを意識させる。</p> <p>[評価例] 全文を通して読むことができる。 意味のまとまりで区切って読むことができる。</p>	
展開1-3 (5分)	<p>本文を意味段落に分ける。</p>	<p>キーワードや接続語句に気をつけながら、段落に分けさせる。</p> <p>[評価例] 意味段落に分けることができる。</p>	
展開2-1 (35分)	<p>段落ごとに、語句の意味を調べ、理解する。</p> <p>例)</p> <p>「日本的経営」 「三種の神器」 「終身雇用」 「年功序列」 「忠誠心」 「日本の高度成長」 「根幹を成す」等</p> 	<p>辞書〔日葡〕を使いながら語句の意味を理解させる。 用語集や資料集を使いながら語句の意味の定着を図る。 辞書に載っていない語句については、適宜説明を加える。</p> <p>[評価例] 語句の意味を自分の言葉で説明できる。 説明できない語句は、自分で辞書を引いて意味を調べることができる。</p>	<p>国語辞書 (日葡辞書) 用語集 (現代社会) 資料集 (政治・経済)</p>
展開2-2 (10分)	<p>キーセンテンスを探し、下線を引く。</p>	<p>キーセンテンスとそれを補足する文とに分けさせることによって、段落中の文の構造を理解させる。</p> <p>[評価例] 第一段落のキーセンテンスを指摘できる。</p>	
まとめ (5分)	<p>[知っておきたい語句] を再度声に出して読む。 第一段落を音読する。</p> 	<p>[評価例] 流暢に読むことができる。 意味を考えながら読み、重要な箇所がどこかを指摘できる。</p> <p>再度通読してくるよう指示をする。</p>	

3 日本語指導にかかわって

(1) 知っておきたいこと

ア 子どもたち、保護者は

日本語を母語としない外国籍等の児童・生徒に対しては、円滑な学校生活を送るために、日本語学習についての支援が必要です。第二言語としての日本語を学ぶこととなりますので、生活言語能力だけでなく、教科学習のために学習言語能力を高めることが重要です。日本語学習の際には、児童・生徒の母語における言語能力について配慮する必要があります。母語は、アイデンティティーや親子などのコミュニケーションに深く関わっています。また、授業内容を理解したり、新しい知識を得たり、考えを深めたりすることが日本語でできるようになるまでは、母語で言い換えたり、母語で本を読んだりするなど、母語を活用しながら学習することになるからです。

学校生活に関しては、教育課程・学校行事・昼食・清掃など、母国の学校と日本の学校とで異なることがありますので、日本の学校がどのような所かということについて、子どもと保護者にしっかりと説明することが必要です。

校則などの学校におけるきまりに関しても、習慣や文化などの違いが、友だちとの違和感やトラブルのきっかけにならないように、子どもと保護者に十分説明する必要があります。経験や暗黙のうちに了解されている事柄もありますので、子どもや保護者の話をよく聞くことも大切です。



日本語を母語としない外国籍等の児童・生徒にとっても、進路の選択は重要な問題です。中学生では特に大きな選択を迫られることとなります。日本の学校制度、進学のための学習面・費用面での準備、社会状況や就職状況など、情報は早めに伝えるようにします。早い段階から自分の将来について考えさせることは、どの子どもにとっても大切なことです。



言葉が違い、習慣や文化などが違うことから、子どもにとって学校に居場所がないように感じる場合があります。日本語を母語としない外国籍等の児童・生徒が授業やLHRなどで自分の国について発表して、互いの文化を理解し、学級内でいきいきと活動できるような場面を作るなどの工夫が必要です。

保護者も、学校の様子がわからず、不安に感じていることがあります。子どもの学習状況をこまめに知らせたり、行事への参加を呼びかけたり、懇談会などで互いの文化を紹介して他の保護者との交流の機会を作ったりするなどの工夫が必要です。



日本語を母語としない外国籍等の児童・生徒が学校に在籍しているということは、互いに異なる文化に触れ、異なる立場の人を尊重したり、自分の国や自分自身についての理解を深めたりする貴重な機会であるとも言えます。

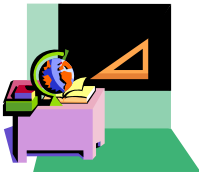
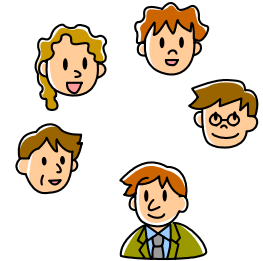
イ 学校内外での連携は

学校内での連携

日本語を母語としない外国籍等の児童・生徒への指導については、担任だけでなく、学年の先生を含め、学校内での連携が重要となります。

国際教室や「取り出し指導」を担当している先生と、原学級（所属学級）の担任や授業を担当している先生とが連絡を取って、児童・生徒の学習状況を把握します。一人ひとりに連絡ノートを持たせ、毎時間の学習状況を記入して、担任との連絡に活用している学校もあります。

連絡ノートに、「今日学習すること」「の時間に学習したこと」「今日できたこと」などを母語と日本語で書かせるのも一つの方法です。児童・生徒の学習や保護者への連絡にも役立ちます。



安全で楽しい学校生活が送れるように、教室以外の場所に母語による案内を掲示したり、掲示板や学校だより等の一部に母語を加えたりするなどの工夫をしてみましょう。この際にも校内での連携が必要です。国際教室内、「取り出し指導」を行う教室内で教材・教具の配置を工夫することは、日本語の習得に役立ちます。目に見えるところに、重要な言葉や難しい言葉をはっておいて、ちょっとした時間にすぐに繰り返して返し復習できるようにするなどの工夫をしましょう。

学校外との連携

日本語を母語としない外国籍等の児童・生徒の日本語指導については、学校だけではなかなか習得が進まない場合があります。学習支援に関わるボランティア活動をしている機関もあります。学校外との連携によって、習得が進んでいる事例もあります。



保護者が日本語を全く話せない場合があり、通訳が必要になることがあります。ホームページや刊行物の中には、保護者への連絡に必要な事柄を外国語に翻訳した内容が載せているものがあります。外国籍住民等を対象に支援活動を行っている機関もあります。

日本語指導に関して参考となるホームページや刊行物については、次のページ以降に載せましたので、参考にしてください。

(2) 詳しく知りたいときに

* 本冊子を作成する際に参考にした資料として、入手しやすいものを載せました。
詳しく知りたいときには、参考にしてください。

ア インターネット



独立行政法人 国際交流基金 日本語国際センター

<http://www.jpf.go.jp/j/urawa/index.html>

「日本語の教え方・リソース」のページには、「講座開設マニュアル（初心者のための日本語講座開設マニュアル）」「みんなの教材サイト」等があります。「みんなの教材サイト」では、日本語教材を作るために必要な文法説明、例文、練習、写真・イラストなどの素材が提供されています。「世界の日本語教育」に関するページもあります。

財団法人 神奈川県国際交流協会

<http://www.k-i-a.or.jp/>

「教員の皆様へ」のページでは、「外国籍児童生徒用教材」として、約60の教材などについて紹介しています。「多言語情報」のページには、「かながわ日本語学習マップ」として、神奈川県内の日本語教室、学習補習教室、母語教室に関するデータベースが掲載されています。

日本語指導教材研究会（平成10・11・12年度文部省委託）

マルチメディア『にほんごをまなぼう』

<http://www.hellonavi.com/foldera/>

「あいさつ」「自己紹介」等の17課からなる、イラストと音声による日本語学習用のソフトです。6カ国語（6課・7課は8カ国語）に対応しています。

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域事業 - つくば市 -

外国人幼児児童生徒指導資料「楽しい学校生活を送るために」（執筆者：kabuki）

<http://tomonisusumeru.talk2u.net/modules/xfsection/article.php?articleid=1>

外国人児童・生徒が日本の学校の生活を理解できるように、また日本語学習のテキストとしても活用できるように作られた指導資料で、5カ国語に対応しています。

財団法人 日本国際教育支援協会

<http://www.jees.or.jp/index.htm>

「日本語能力検定」「機関保証制度」（奨学金）に関するページがあります。

「日本語能力検定」は、日本語を母語（子供の頃から使っている言葉）としない人を対象として、日本語能力を測定し、認定することを目的としています。一番やさしいレベルである「4級」では、初歩的な文法・漢字（100字程度）・語彙（800語程度）を習得し、簡単な会話ができ、平易な文、又は短い文章が読み書きできる能力（日本語を150時間程度学習し、初級日本語コース前半を修了したレベル）を測定します。

財団法人 中国残留孤児援護基金 中国帰国者定着促進センター
「同声・同気」

<http://www.kikokusha-center.or.jp/index.html>

「教材・論文等・参考文献」「児童生徒向け教材」等を紹介しているページがあります。

社団法人 日本語教育学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/nkg/>

日本語を第一言語としない者に対する国内及び国外の日本語教育に関する資料・情報の提供、研修会・講演会の開催、資料集・学習参考書などの編集・刊行を行っています。

筑波大学大学院 卯城祐司研究室

第二言語習得 (second language acquisition: SLA) に関する用語集 (2004年7月更新)

<http://www.modern.tsukuba.ac.jp/ushiro/Publishing/SLAglossary.html>

第二言語習得に関する用語とその解説がアルファベット順に並んでいます。

早稲田大学大学院 日本語教育研究科

<http://www.waseda.jp/gsjal/index.html>

「日本語教育学オンデマンド講座」や講演・研究発表を開催しています。

文部科学省

「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査(平成15年度)」の結果

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/03/04032401.htm

平成3年度から調査が開始され、平成3～11年度は隔年で、平成12年度からは毎年実施されています。平成15年度の調査結果は、2004年3月に発表されました。

文部科学省

「海外子女教育・帰国児童生徒教育等に関する総合ホームページ」

CLARINET(Children Living Abroad Returnees Internet)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

海外子女教育・帰国児童生徒教育関係の教育相談等の情報提供を行っています。

神奈川県 県民部 国際課企画班

神奈川県の国際政策

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokusai/seisaku/seisaku.htm>

神奈川県の国際政策に関するページで、「外国籍住民に対応する施策状況」等を掲載しており、「多言語による情報提供」も行っています。

神奈川県教育委員会

「入学者選抜について」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokokyoiku/kenritu/nyusen/k-nyusen.htm>

神奈川県公立高等学校入学者選抜の概要や選抜要綱に関するページで、「海外帰国特別募集・在県外国人特別募集」についての情報も掲載されています。

イ 刊行物

(ア) 日本語指導



- 『入国児童のための日本語教育』
縫部義憲（スリーエーネットワーク 1999年）
義務教育における日本語指導を取り上げ、「入国児童日本語シラバス」「児童日本語教育のカリキュラム」「入国児童日本語教育の指導法」等について解説しています。
- 『Welcome to 日本語教室 外国からきた子どもたちに日本語を教えるボランティア』
つくばインターナショナルグループTIG学校部（明石書店 2003年）
「日本語教室の子どもたち」の様子を紹介し、「子どものための日本語指導」「子どものための日本語ボランティア」について解説しています。
- 『もしも...あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』
荒川洋平（スリーエーネットワーク 2004年）
経験がないのに日本語を教えることになった3人のケースについて、それぞれの授業がどのようなであったかを記載した後に、「教え方の枠組み」について解説しています。
- 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』迫田久美子（アルク 2002年）
第二言語の概略について、「第二言語習得研究はなぜ必要か」からはじまり、「第二言語習得にかかわる要因」「日本語の習得と日本語教育」等について解説しています。
- 『日本語教育の方法 コース・デザインの実際』田中望（大修館 1988年）
「コース・デザインとはなにか」からはじまり、「シラバス・デザイン」「カリキュラム・デザイン」「テスト・評価とコンサルティング」等について解説しています。
- 『初心者向き すぐに役立つ日本語の教え方』小島聡子（アルク 2002年）
「コース・デザイン」「授業の組み立て」「教材・教具の使い方」からはじまり、文法や日本語の練習方法などについて解説しています。
- 『改訂新版 日本語教師養成シリーズ 日本語教授法』
河野美抄子・佐治圭三・中川良雄（東京法令出版 2004年）
日本語教育能力検定試験に対応しており、シリーズとして全6巻あります。「文化・社会・地域」「言語一般」「音声、文字・表記」「文法、語彙、日本語史」「異文化理解と情報」です。
- 『日本語教師・分野別マスターシリーズ よくわかる教授法』小林ミナ（アルク 1998年）
日本語教育能力検定試験に対応しており、「コース・デザイン」「教室活動」「教材・教具」にはじまり、「評価」「外国語教授法と日本語教育」等について解説しています。

『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』

松岡弘監修、庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘著

(スリーエーネットワーク 2000年)

初級レベルで取り扱われる文法事項を分類し、解説しています。

日本語能力試験2級以上のレベルに必要な文法項目を取り上げた、『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』もあります。

『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』

高見澤孟監修・著、伊藤博文・ハント蔭山裕子・池田悠子・西川寿美・恩村由香子著

(アスク 2004年)

「教授法」「コース・デザイン/教材」「文法」等の項目別に用語の解説をしています。

『いっしょに学ぼう 外国人児童・生徒のための日本語指導資料』

神奈川県教育庁指導部義務教育課(平成6年)

「受入れにあたって留意すること」「にほんごを始めよう」等の初期指導について分かりやすく解説された冊子です。



『ようこそ日本の学校へ 日本語指導が必要な外国人児童生徒の指導資料』

文部省(ぎょうせい 平成7年)

「外国人児童生徒に対する教育の考え方」からはじまり、「外国人児童生徒の受入れ」「日本語指導」「学習指導」「教育相談・進路相談」等が掲載されています。巻末付録として、「外国人児童生徒受入れ時の調査票例」「学校から家庭への連絡文例」「授業理解のきっかけとなる表現パターン例」等が掲載されています。

『外国人児童生徒のための日本語指導 第1分冊 カリキュラム・ガイドラインと評価』

東京外国語大学留学生日本語教育センター編集(ぎょうせい 平成10年)

「外国人児童生徒に対する日本語指導の在り方」の後に、「小学校用日本語指導カリキュラム・ガイドライン 適応場面を利用して」「小学校高学年・中学校用日本語指導カリキュラム・ガイドライン 教科学習のために」が続き、最後には「日本語力評価方法試案」が掲載されています。

第2分冊「算数(数学)・理科の教科書 語彙と漢字」、第3分冊「中国語版文法説明」、第4分冊「ポルトガル語版文法説明」もあります。

『地域日本語学習支援の充実 共に育む地域社会の構築に向けて』

文化庁(国立印刷局 平成16年)

地域での日本語学習支援の必要性や地域在住外国人が抱えている様々な問題の解説をはじめ、「日本語学習支援活動の実践へ向けて」等が掲載されています。資料編も充実しており、「日本語指導法に関するQ&A」も掲載されています。

(イ) 教材



『にほんごを まなぼう』

『日本語を学ぼう 2』

『日本語を学ぼう 3』

文部省(ぎょうせい)

この他に、それぞれについて「教師用指導書」があります。

『外国人の子どものための日本語 こどものにほんご1』

『外国人の子どものための日本語 こどものにほんご2』

西原鈴子監修、ひょうご日本語教師連絡会議子どもの日本語研究会著
(スリーエーネットワーク)

この他に、それぞれについて「絵カード」があります。

『ひろこさんの たのしい にほんご 1』

根本牧・屋代瑛子(凡人社)

『ひろこさんの たのしい にほんご 2』

根本牧・屋代瑛子・永田行子(凡人社)

この他に、1・2について「ぶんけいれんしゅうちょう」「教師用指導書」が、1について「ひらがな・かたかな・かんじ」「絵カード」「絵カード CD-ROM 版」があります。

『こどもことば絵じてん』三省堂編修所編、金田一春彦監修(三省堂)

『言葉図鑑』

五味太郎(偕成社)

全10シリーズ。

[うごきのことば、ようすのことば、かざることば(A)、かざることば(B)、つなぎのことば、くらしのことば、たとえのことば、かくれたことば、しっぽのことば、なまえのことば]

『ことば遊び絵カード』

村石昭三・関口準監修(鈴木出版)

全10シリーズ。

[食物・台所用品、動物、人・職業・物語の登場人物・体、自然・行事・場所(屋外)、身のまわりのもの1、身のまわりのもの2・場所(家の中)、動きのことば1、動きのことば2、様子のことば1、様子のことば2・生活のことば]

この他に、「マークの絵カード」「国旗の絵カード」があります。

『かんじだいすき』

社団法人 国際日本語普及協会(社団法人国際日本語普及協会)

全5巻。この他に、補助教材(漢字・絵カード)全4巻があります。

『にほんごワークブック』

日本語ぐるりっと編著（凡人社）

「学校生活にほんごワークブック」として、小学校高学年児童・中学生用教材を取り上げています。

『ヤングのための日本語 Japanese for Young People I』

社団法人 国際日本語普及協会（講談社インターナショナル）

「スチューデントブック」全3巻、「かなワークブック」全1巻、「漢字ワークブック」全2巻があります。

『高校生の日本語 12 か月練習帳』

財団法人エイ・エフ・エス（AFS）日本協会編（凡人社）

『表現テーマ別 にほんご作文の方法』

佐藤政光・田中幸子・戸村佳代・池上摩希子（第三書房）

『日本語の作文技術 中・上級』

倉八順子（古今書院）

『みんなの日本語初級 本冊』

『みんなの日本語初級 本冊』

スリーエーネットワーク編（スリーエーネットワーク）

この他に、「本冊ローマ字版」があります。また、「初級教え方の手引き」「初級翻訳・文法解説」（全10冊、10か国版）等の補助教材が数多くあります。

『基礎日本語学習辞典』

独立行政法人 国際交流基金編（凡人社）

全8冊、8か国版があります。

『はじめての日本語辞典』 COMMUNICATION 日本語研究所編（時事日本語社）

この他に、国語辞書・漢和辞書、各言語の辞書、百科事典などが役立ちます。

